



季節感

天高く、馬肥ゆる秋！

どこまでも碧く澄んだ空に馥郁とした香りが満ち溢れている。静かで平和で豊かな気持ちになる…

『キンモクセイ』

平成24年10月3日
福岡市城南区油山登山道
大塚俊樹



熊洞居人独言

7 8

前回の眩きで、kuma が住んでいる「御笠」が宝満山の山麓である事を紹介したが、宝満山も千年前より百年前までは「御笠山」と呼ばれていた。この時代は旧御笠郡 = 現在の大野城市・太宰府市・筑紫野市の守護神であったので、御笠山と言う名前地域住民を始め福岡地域の住民から、守り神様が住んでいる山として親しまれてきた。

現在は単なる山として親しまれている。kuma も中学2年生=59年前に最初に登って入り、現在までは千数百回は登っている。三千回以上登っておられる方が数名居られ、千回以上登られた方は千人以上居られる要である。今も殆ど毎日登られる方が居られるようであるが、殆どの方が太宰府市の側から、宝満山の神様・竈門神社に御参りした後に登られている。kuma は朝起きた時に、寝室の東側から宝満山を見上げて御参りをし、夜、寝る前にも宝満山の神様にお礼を言って寝ている。しかし、この数年間は山頂に上がっておらず、神様からは招かれていると思っている。

竈門神社には月数回は御参りしており、日常生活を守られていることに、神様にお礼を申し上げている。神様には、今後年数回は頂上まで行って御参りをすることを申し上げている。kuma は現在72歳であるが今でも元気にしており、原地区に住んでいる為、竈門神社までは歩いて行っている。距離は約2kmで25分で到着する。筑紫野市の原地区を守っている神様は「竈門宮」である。この為、昔から原地区に住んで居られる住民達は、竈門神社の祭りも年数回行っておられる。

そして、筑紫野市の御笠地区の一部である「大石・本道寺・柚須原」地区は宝満山の東側斜面であり、江戸時代までは「宝満川」の流れに沿った、京都へ向かう街道があった。この道は、九州地区の住民達が京都へ向かう街道であったので、天気の日には多くの人達が利用していた。街道の上部・米の山峠を超えると筑豊地区に下りて行き、瀬戸内海に面した海岸から船に乗って瀬戸内海を渡り、大阪へ向かっていた。このように、この街道は九州地区の住民が本格的に利用していた道路であったのである。

★都市公園で自然観察会17★

春日公園で、いろいろな視点で植物や昆虫、野鳥などをゆっくりと観察します。

☆日時 10月21日 (日)

集合14時00分 ~ 解散16時00分

☆場所 春日公園・自然かんさつ館
〔旧公園管理センター〕

連絡先 担当：田村 耕作

TEL 090-8220-6160〔携帯〕

Eメール kurabird-.tamura@nifty.com

木の根っこで見かけたカレエダタケ



日本野鳥の会 福岡 主催

※参加費：100 円（中学生以下無料）

10/21（日） 11/18（日） 天拝山探鳥会（筑紫野市） 時 間：9:00～12:00 集 合：天拝山歴史自然公園 問合せ：092-920-7112（山本勝）	10/27（土） 11/24（土） 久末ダム探鳥会（福岡町） 時 間：8:00～11:00 集 合：久末ダム多目的広場横駐 車場（管理事務所下） 問合せ：0940-33-7846（高原和幸）	11/4（日） 今津探鳥会（福岡市西区） 時 間：9:00～12:00 集 合：玄洋高校西側道路 問合せ：092-891-9005（神園道男）
11/10（土） 大濠公園探鳥会（福岡市中央区） 時 間：9:00～12:00 集 合：ボート乗り場前 092-573-1827（森健児）	11/11（日） 和白海岸探鳥会（福岡市東区） 時 間：9:00～12:00 集 合：JR 和白駅前の公園 問合せ：092-606-0012（山本廣子）	11/6（火） 県営春日公園（春日市） 時 間：10:00～12:00 集 合：旧公園管理センター前 問合せ：090-7390-3561（小野仁）

日本野鳥の会 筑後 主催

※参加費：100 円（中学生以下無料）



庭のエシタキ 三国・松永

10/28日（日）

黒崎公園と隈川周辺（大牟田市）

時 間：9:00 ～

集 合：黒崎公園第1公園グラウンド

交 通：車でご集合ください。

問合せ：090-7446-9047（野田達行）

三国丘陵の自然を楽しむ会 主催

<http://mikunikyuryo.blog107.fc2.com/>

11/3（第1土曜日）

自然観察会（植物・昆虫・野鳥など）

集 合：九州歴史資料館駐車場

時 間：9:30～12:30

問合せ：092-920-3072（松永）

参加費：大人のみ 200 円（保険料込）

ブログは 三国丘陵 [検索](#) で
すぐにヒットします。



三国丘陵の自然を楽しむ会・観察会の様子

久留米の自然を守る会 主催

第401回例会

ネイチャーゲームと自然観察会

10/21（日） 雨天中止

全国いっせいのネイチャーゲーム
と昆虫と植物の自然観察会を行います。
要 事前申し込み

集 合：高良内幼稚園

時 間：10:00～14:30

参加費：無料 定員30名

持ち物：水筒、帽子、筆記用具

問合せ：0942-46-8622（古賀）

共 催：くるめネイチャーゲームの会
久留米市農政部生産流通課



アリノタイマツ 三国・松永

和白干潟を守る会 主催

10/27（土）

守る会定例会議

時 間：10:30～13:00

集 合：和白干潟を守る会事務所

問合せ：092-606-0012（山本廣子）

10/27（土）

クリーン作戦 と自然観察会

時 間：15:00～17:00

集 合：海の広場 駐車場なし

長靴・軍手があると便利

問合せ：090-1346-0460（田辺スミ子）

福岡植物友の会 主催

10/21（木）

グリーンピア 八女

問合せ：092-662-2983（佃）

参加有料 予約必要

HPにてご確認ください。

◆お報せ◆ ◆ 環境フェスティバルふくおか2012 ◆

※会員の皆様の協力をお願いします！※

ナイス福岡 事務局 田村

◇環境フェスティバルふくおか2012

日時：平成24年10月20日（土）・21日（日） 10:00～16:00

会場：福岡市役所西側ふれあい広場・北側緑地 & 市民ロビー

○内容1. 展示：自然の身近な植物の葉・茎・実などを用いた遊びの紹介

○内容2. 自然を楽しむ体験：市役所のそばの公園にて、催す予定。

※当日の集合予定：展示場に9時頃

協力いただける会員の皆さんには、**当日、会場にての、展示場のお世話や公園での自然案内** あるいは **前日までの自然の材料を用いた遊びを紹介するための材料集め** をお願いします。

◆問い合わせ等の連絡先：事務局 092-400-1765 / 田村携帯 090-8220-6160

＊＊投稿その1＊＊

毎日新聞 2012年10月8日に次のような記事が掲載されていました。

会員の皆様の感想を聞かせてください。○会員からの投稿です。

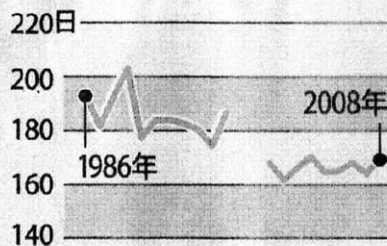
温暖化で滞在期間が1カ月短縮

横浜市でツグミなど冬の渡り鳥

秋に飛来し、春先に北の繁殖地に飛び立つ渡り鳥（冬鳥）の日本での滞在期間が1986年に比べて約1カ月も短くなっていることを、横浜市内での観察データを基に、東京都市大の小堀洋美教授（保全生物学）が突き止めた。

渡り鳥が日本に来る時期が遅く、旅立ちの時期は早くなっているため、地球温暖化と都市部のヒートアイランド現象の結果、横浜市の年間平均気温が約1度高くなったことが、

渡り鳥の滞在日数の変化



※6種平均、横浜市、東京都市大による

鳥の渡りに影響を与えたり。同様の傾向は北海道や九州の渡り鳥でも見られているという。

地球温暖化が渡り鳥の行動に

影響を与えるとの報告は、欧州や米国ではあるが、日本での調査は少なく、温暖化の生物への影響を知る上で貴重なデータとなりそうだ。

同市内の「横浜市民の森」では86年から、日本野鳥の会や市の職員などが鳥の観察を続けており、記録から冬鳥が最初に見られた日（初見日）や最後に見られた日（終見日）などが分かる。

小堀教授が、ウソやアオジ、ツグミなど毎年飛来した6種類の冬鳥のデータを解析した結果、86年から2008年までの間に、ほとんどの鳥の初見日が年々遅くなり、最も変化が大きいツグミではこの間に約19日遅くなっていた。

逆に終見日は6種全てで早く



なり、ジョウビタキでは、36日も早まっていた。この結果、6種平均で半年余りだった日本での滞在期間が29.7日短くなった。

小堀教授は「温暖化の影響は



渡り鳥の一つ、ウソとツグミ（真木広造さん撮影）

今後、さらに顕著になるとされる。渡りなどの生態の変化が種の生存、その種とつながりを持つ他の生物や生態系に与える影響などを含めて、さらに詳しい研究が必要だ」と話している。

＊ ＊投稿その２ ＊ ＊ 「小さな“俵” をみつけました」

８月末に、勤め先の方が呼びかけ人の植物勉強会に参加し、福岡市西区にある今宿野外活動センターに出かけてきました。

この日はとても暑く、敷地内を流れている七寺川では、子供連れの方々が楽しそうに水遊びをしていました。私たちは、その様子を気持ちよさそうだな～と眺めながら、敷地に沿った林縁の道をゆっくりと散策しました。日差しはとても強く、日向に出るとジリジリと焼けつくように暑かったのですが、日陰に入ると適度な風も心地よく、とても快適に散策できました。

そんな林縁に生えたアカメガシワの葉に、何気なく目を向けた時、15cm 程の糸にぶら下がった小さな丸いものを発見しました！それは俵のような形をしていて、表面にウズラの卵のような模様がありました。私は、昆虫の卵かと思ったのですが、同行者の中で昆虫に詳しい方に伺うと、どうもハエかハチの仲間の繭(まゆ)だろうとの事でした。

自宅に帰って調べてみると、ヒメバチ科という、クモや昆虫に寄生するハチの仲間であるホウネンタワラチビアメバチの繭にそっくりです。ですが、ヒメバチ科の中には他にも似た繭を作る種がいるようなので、種名までは特定できませんでした。

ちなみに、「ホウネンタワラ」を漢字で書くと「豊年俵」で、名前の由来は、イネを食害するフタオビコヤガやセリチョウの仲間などに寄生するハチとして知られていて、この虫が多く発生するとイネの害虫が減って豊作が期待出来るからだそうです。その他の蝶や蛾の幼虫にも寄生するようですが。

それにしても、繭の表面の模様はどうやって作っているのでしょうか。とても興味深いです。

春日市在住 ねこ



散策した道



左：ぶら下がっている繭
右：拡大した繭の写真

・ ～ ・ 春日公園自然観察日記／16回 2012年9月16日（日）・ ～ ・

この日は参加者が私を含め3名でした。雨、台風16号が北上中。
雨だからこそ、出合える生きものを、楽しみました。

観察開始はウラギンシジミ



ケヤキの樹皮



雨宿りか、ナツアカネ

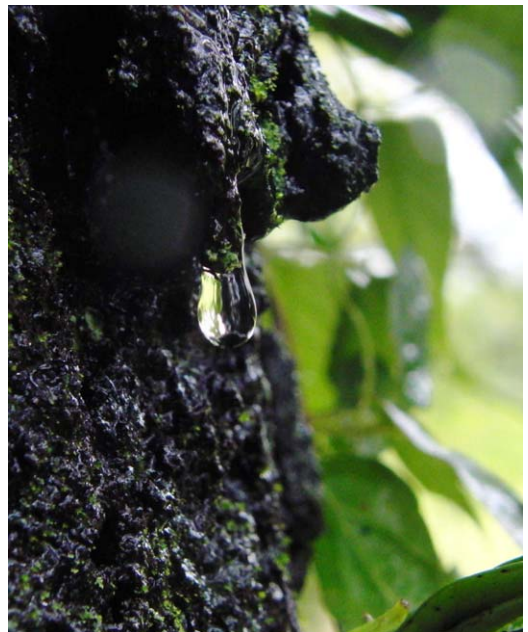


鮮やかな赤い色の葉っぱ



ヤモリ、枯れ葉に潜る

報告と写真 田字草



雫が落ちる



